

癌とナツパ・青汁食

医学博士 遠藤 仁郎 述

手おくれの癌

五一才の主婦。

一年前胃潰瘍。昨年一〇月、胃鏡検査で胃癌をうたがわれ、手術。

もう腹全体にひろがつており、水がたまりかけていたので、そのままにし、抗癌剤や丸山ワクチンの治療をうけて、この一月中旬退院しましたが、せいぜい一―二ヶ月だろう、といわれています。

青汁をすすめられ、顆粒を毎日五―六袋のみ、食事はイモ・芋・ナツパ食にして、やや好転のきざしがみえかけています。

しかし、本人は、お米のご飯を食べてないことを大変不安がっています。

食欲はよろしい。

家は酒販売をしており、とも様ぎなのでいそがしいため、いつも、手のかからない出来あい食品ばかり食べ、肉類が多く、野菜はほとんど食べず、菓子は大好物。

便秘がちでしたが、青汁をはじめて快通しました。

そのひどい偏食と出来あい食品依存の食生活が原因だったのでしょう。

青汁をはじめて、いくらかでも好転のきざしが見えるのでしたら、そして、食欲があるのは、なによりさいわいですから、もっと大量、少なくとも一〇―一二袋以上を、熱心につづけ、できれば、生の青汁も飲んでほしい。

その他の食事では、イモ・芋・ナツパ食がよく、米食はいちばんよくないんですが、本人がそれを不安がられるなら、その精神的影響もかんがえなければなりませんから、時々食べてみるのもよいでしょう。

ただし、白米にはそれを完全にするために三倍のナツパが要る（イモでは半量ですむ）こと。それだけ多く青汁が必要なることを忘れないよう。

また、肉ものや魚の刺身が、どうしても食べただければ、同様、青汁をそれだけ多く（二―三倍）のんで食べ、それで食事がすすみ、体力がつくようなら、それも結構です。

それによつて血をきれいにし、からだ中のはたらきをよくして、生命力・健康力（抵抗力・回復力）をたかめようというもの。

ただし、思いきつてしつかり飲むこと。それを熱心に気ながにつづけることが肝要です。

なお、インスタントものなど出来あいの食品はきけ、なるべく安全なものにすること。

また、白米飯・白パンよりはイモ類を、肉や魚の切り身よりは小魚、大豆ものを多くし、良質ナツパを主とする野・山菜、海藻などを十分そえること（イモ・芋・ナツパ食）。

調理は簡単に、味づけはうすく。

嗜好品、菓子、ジュース、酒、タバコにも十分注意する。

以上、はなはだ平凡なことばかりですが、ただ傷の治りだけでなく、腫瘍の再発予防にも役立ちますから、

ともかく、熱心に徹底されることをおすすめします。

（六〇・五）